

会 議 録

会議の名称	平成29年度 飯塚圏域障がい者地域自立支援ネットワーク 第1回全体会議
開催日時	平成29年6月6日(火) 15時から16時半まで
開催場所	飯塚市役所穂波庁舎2階 203会議室
出席委員	許斐委員、廣瀬委員、臼井委員、松本委員、石和委員、小坂委員、藤嶋委員、 貝嶋委員、横山委員、辻田委員、丸野委員、森部委員、伊藤委員、江藤委員
欠席委員	山梨委員
事務局職員	木本・渡邊(飯塚市社会・障がい者福祉課)、福田・末田(嘉麻市社会福祉課)、 川野・栗山(桂川町健康福祉課)、彦田・真田(障がい者生活支援センターさん・あび)、 寺敷・森田(障がい者生活支援センターかさまつ)、因幡・石本(障がい者相談支援センターたいよう)、 小野(相談支援センターフォースク)、小出(障がい者生活支援センターBASARA)
会議内容	<p>・定刻に至り会の成立を認め、飯塚市社会・障がい者福祉課課長よりあいさつ</p> <p>・事務局より資料1「飯塚圏域障がい者自立支援ネットワークの会議の公開に関する基準」について加筆部分を主に説明</p> <p>・事務局より前回の全体会議終了後、飯塚圏域自立支援ネットワークの組織の再編とその役割について、配布資料のリーフレットを約243の関係機関について送付したことを報告</p> <p>・事務局より資料2「飯塚市・嘉麻市・桂川町障がい者基幹相談支援センター(案)」について説明</p> <p style="text-align: center;">議 題 (1) 相談支援部会の報告</p> <p>【事務局】資料3「専門部会報告書」について説明</p> <p>【委員】6月13日の第2回相談支援部会の詳しい内容を教えてほしい。</p> <p>【事務局】場所はのがみプレジデントホテルの2階、時間は18時～20時を予定している。内容は「事例を通じて重症児の地域生活支援を考える」。障がい児の指定相談支援事業所だけでなく、者の退院の時にも同じような課題が考えられるので成人の指定相談支援事業所にも声かけている。各機関の役割をお互いに知ってもらえるように各機関からコメントをもらうようにしている。</p>

議 題 (2) 医療的ケアを必要とする障がい児者のサービス利用に関

する実態調査結果及び今後の進め方

【事務局】 資料4「調査概要」「参考資料」について説明

【委員】 レスパイト入院というのはどういう内容なのか。短期入所とは違うのか。

【事務局】 短期入所は福祉サービスの給付によるもので、入所の事業所などが受けてくれるサービスになる。病気の症状が悪い時ではなく、介護者が疲れている時や用事がある時に医療機関でレスパイト入院という形をもって対応してくれる。緊急の時は受け入れの調整が難しいとの医療機関の調査結果が出ていた。

【委員】 者より児のニーズが多く課題が未解決な状況であるということで、事業所がどんな取り組みをしていくべきなのか、また関係機関とどう取り組んで行くのか課題があると思うが、人員配置ができないから受けられない、設備の面で費用がかかるなど、一事業所がどこまでの負担を担っていいのかリスクがある。そこに協議会がどんな提案をしていけるのかが今後の課題。協議会や専門部会で事業所と意見を交わし合い、お金の面なども案を出し合っていけたらと思う。

【事務局】 委員の事業所では看護師の常駐はないが同法人の訪問看護があるので医療連携体制加算を活用し、ケアの必要な時にケアに入ってもらおうという取り組みを、他の事業所より先だてられており貢献していただいている。

【会長】 社会資源の整備の面で事業所が難しいところを制度での担保というところを協議会で提案できるか、それと制度の中でどのような工夫をすれば進歩できるかということだと思う。

【事務局】 委員からのご指摘通り協議会はそのような場所だと思う。既存のサービスでは解決できていない課題が山積している。意見交換会の中でやれることとやれないこと、また工夫ができることなど同じ方向を向いて協議できるようにすることがネットワークの事務局の役割だと思う。専門分野の方に今後も積極的にご意見を出していただきやっていきたい。

【事務局】 今回アンケートの対象機関に特別支援学校を入れてなかったが、医療ケアの必要な中学生、高校生もおり、看護師配置もそれぞれにあると思うが、学校も、ある意味で言えば、親のレスパイトであるし、児童の学びの場の確保という点でも同じように一緒に検討していただけたらと思う。通学に関しても課題という声も関係機関から聞かれている。

【委員】 医療ケアが必要な生徒やそのレスパイトに関して、直方特別支援学

校は直方聾学校と一緒に幼・小・中・高の生徒がおり、幼稚部の生徒は主に聴覚障がいの子が多く、導尿などの医療ケアをしている。医療ケアが必要な生徒が約十数名おり、看護師配置は4名。県内でも多い配置となっており、それだけ医療ケアが必要な生徒が通っていると思ってもらえたらと思う。送迎についてはスクールバスが7台出ているが、医療的ケアが必要な生徒は断っている。看護師が乗ることが認められていないためであり、送迎中に確実に医療的行為が必要ではないという生徒の送迎の利用について相談がっており協議をしている。それが認められたらそのような方向で動くようになっている。レスパイト入院について制度を知っている方は飯塚病院などをずっと利用されているが、知らない方も多く、情報提供が必要であると思っている。

【会長】送迎については制度で認められていないということだが厳しいですね。

【委員】看護師が校外学習に同行できるまでは可能になったがスクールバスはまだできない。宿泊に伴うものもできないので修学旅行もできない。

【事務局】各分野で今までのやり方、仕組みでは難しいということがたくさんあり、それを違う形でどうにかできないか協議する場がこの場だと思うので知恵を出し合って行けたらと思う。先日の相談支援部会の際に通学で困っている児童のことを知った入所施設の相談員が、できるか分からないが事業所の送迎で乗せたらいいよねというアイデアも出た。出来ないではなく色々な発想をもって協議できたらと思う。

【委員】解決すべきことはたくさんあるが上手くいかない何かがある。しがらみや、支障になるものもあって、制度上、補償のところでダメになることがある。仕組みを作らない方が上手くいくこともある。この協議会があるのでみんなで共有し問題解決に向かえばいいかと思う。課題を聞いて終わるのではなくその先につながるものがないといけないと思う。アンケートで事業所が足りないというところがあるが、本当はもっと関係者で話さないといいことなので、部会などでテーマをもって関係者で話合う場、決定機関をもつことが大切かと思う。

【委員】児童のレスパイトの問題もあるが、親が子供の卒業後の進路を自分たちの力で探しているという実態がある。家族には社会資源の詳しい情報が行き渡っていない状況がありかなり難しいかと思うのだが、学校では進路指導も一人の先生が担われているなど、様々な事情で苦労されている状況がある。児童の社会資源の情報の共有や横のつながりなど、学校を含めて課題を共有しニーズを拾えるような地域づくりが必要かと思う。そのためにも部会が必要かと思う。

【委員】医療的ケアがいる方がレスパイト入院ができないとなると家族が家で24時間医療ケアをせざる負えない状況が続くということなので、家族が眠れない、買い物にも行けない、ストレスがたまり疲弊して行き、結果家でみれない状況になっていくので、このように出てきた一つ一つの課題を話し合う場が本当に必要だと思う。このように課題がはっきりしているものについては課題解決型の部会を設けて協議をしたらいいと思う。メンバーについては医療、福祉の専門分野の方にも色々なアイデアをもらえるとと思うので幅広い方に参加してもらおう形で行えばいいと思う。

議 題 (3) 意見交換

【委員】自立支援ネットワークで貴重な意見を聞かせてもらっている。部会を設置し課題を全体会議にあげてもらい全て解決できればいいが、行政的な問題もあり、また2市1町それぞれの事情もあると思う。桂川町については規模的にもマンパワー的にも小さく社会資源も乏しいのだが、2市1町一緒に活動をしてきたので、住民福祉サービスについては均等化に平等化した形でやっていきたいと思う。また、委託の相談員さんについては、原点は行政の対応、支援にスキルがなく一緒に現場で動いていただき障がい者の手助けになるような形でスタートしたかと思うので、これから基幹センターになり5つのセンターが1か所に集まり一緒になるが、今まで通り現場に出て行って一緒に動いてもらいたいと思う。そこも力を入れて一緒に頑張っていけたらと思う。

【委員】一つ一つ勉強させていただき頑張っていきたいと思う。

【委員】インフォーマルな部分を情報共有する中で地域の課題としていかに克服していくかが大きいと感じている。行政は手続き上のことに終始しがちだが、職員が全て形式的に終わっているというわけではなく、このような場も必要と感じており、縦軸と今度は連携という形での横軸で取り組みを進めて行ければと思っている。県内で取り組んでいる所もあるが実のある取り組みに昇華しているかという中々結実するもの難しいという状況にあるので当圏域ではなんとかかできるようなと思っている。専門部会では忌憚のない意見をいただきたいと思っている。行政は当事者の皆さんの気持ちを受け止めるということから始めているのだが誤解をしていることもあるので、このような機会でも色々な話を聞かせてもらい受け止めていきたい。頻度についてはどういうペースがいいのかということも提起したいと思っている。

【委員】再編前の自立支援協議会は上手くいかなかったが地域に開かれて

	<p>はいた。今日の話自分を自分が家族会の皆さんに伝えたいがそれは難しい。ぜひ今後、課題解決について実践し情報共有された時には、全体会議を市民を対象にしたような報告会というような集会を開催してもらいたい。今回西鉄バスの運賃が精神障がい者も半額になったのだが、これは全国の家族が地道な請願を繰り返した結果であり、無駄だと思うことでも弛まずやっていくことで広がりを持ちアピールすることができるので、是非市民に開かれた集会の開催をお願いしたい。</p> <p>【委員】親の立場で聞かせていただいた。障がいがあろうがなかろうが共生して生活していける地域がいいと思う。親亡き後、障がい者が地域の方に支えてもらいながら生活できるようにしていただきたいと思う。若い親もどこの事業所に行けばいいのか分からず相談にくることが多い。親の立場で相談にのるのではなく相談支援事業所につなぐようにしており先に進んでいる。今地域に相談センターがあるのが嬉しく、今後も活躍していただき障がい者に力添えしていただけたらと思う。</p> <p>【委員】自分は身体障がい者福祉協会だが発達障がいの方などと話しを聞いたことはないので勉強して行きたいと思う。</p> <p>【委員】進路の話が出たが、ハローワークとしては障がいの特性に合った就労の相談という形で相談にのっており、10月には毎年合同面談会を開催している。1.8パーセントの法定雇用率に向けて達していない事業所に指導をしながら求人開拓をしている。障がい者の方が一人でも多く就職できるよう関係機関と連携をしながら取り組んでいる。</p> <p>【委員】保健福祉環境事務所でも小児医療、在宅医療について取り組んでいる。精神保健福祉系では精神障がい者の地域移行、地域定着の推進に向けて研修会などの場を設け、グループワークで行政と医療と相談員と一緒に話をすることで顔の見える関係性をつくりながら進んでいる印象を持っている。医療的ケアについても通じるものがあると思う。今度の意見交換会も課題解決に向けた一歩になると思う。それと社会資源情報の周知不足について、保健所で社会資源情報誌を今回改定して作ったが、発信や周知の仕方など専門部会で検討していくのも一つかと思う。</p>
会議資料	<p>資料1 「飯塚圏域障がい者自立支援ネットワークの会議の公開に関する基準」</p> <p>資料2 「飯塚市・嘉麻市・桂川町障がい者基幹相談支援センター（案）」</p> <p>資料3 「専門部会報告書」</p> <p>資料4 「調査概要」「参考資料」</p>

公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 1 公開 2 一部公開 3 非公開 (傍聴者なし)
その他	